

# 『大鏡』を読む会



テキスト『大鏡』：全現代語訳 保坂弘司著 講談社学術文庫  
定例会 日 時：毎月 第4水曜日 午後1時30分～  
会 場：町田市立中央図書館 6階 中集会室

『大鏡』は、「四鏡（しきょう）」（大鏡・今鏡・水鏡・増鏡）の最初の作品で、仁明天皇に続く、文徳天皇の嘉祥3年（850）から後一条天皇の万寿2年（1025）に至るまで、14代176年間の平安時代最盛期、藤原氏の栄華を軸として、大宅世継（190歳）と夏山繁樹（180歳）という長命な二人が語合い、それを若侍が批評する対話形式で書かれている、人物や事件を中心とした紀伝体の歴史物語です。

～世継（皇位継承、藤原氏の系統）と繁樹（枝も茂り、実も結ぶ）の会話～

テキストの『大鏡』は、古典の大衆への浸透を目標に、平明を旨とした現代語訳なので、適宜に「段」を設け、内容を要約する「見出し」をつけ、丁寧なルビで、読み易く、人名・地名・主要な有職故実・事件等の解説をしています。

読書会では、毎回15頁程度を、段落毎に、登場人物を天皇家や藤原氏の系図等で確認したり、同時代の日記・随筆・物語文学・詩歌等を参照しながら、楽しく読み進めています。